

雑木林ボランティア講座 H25年度 第1回 4月28日



調布市で里山の風景が残る佐須のあたりは立川段丘面と武蔵野段丘

面との境である国分寺崖線を臨む地形になっています。第一回目は調布の地形の成り立ちと雑木林の現状を知ることが目的に開催されました。

午前中は国領駅前のあくろす内で戸部先生の講義を受けました。

◆数百万年も昔、多摩川その他の川の運んだ砂礫や粘土で武蔵の台地の基礎ができ、縄文時代以降には原始的な焼き畑農業により武蔵野が草原化してしまったこと。そこで身近な所に萌芽再生しやすいクヌギ・コナラを植え、薪や木炭などの燃料やシイタケ栽培などに使う人工林を育てたのが雑木林であること。

現代では薪炭材や堆肥の供給源としての目的は終わったが、手入れによって保たれてきた人類の遺産としての生態系を保全していくためには積極的な介入が必要なこと。

調布市内の雑木林も先生が子どもの頃と比べると規模は小さくなったが樹木は高木になりすぎ、陰樹であるシラカシ・アラカシなどが育ち群落の性質が変化してきていること。そのため調布市所有の崖線樹林地の手入れが必要に成っている事などを学びました。



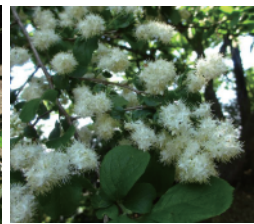
4月初旬のカニ山あたり



全員集合



ミズキ



サワフタギ



ニガナ



クレソンと
キツネノボタン



野川に流れ落ちる
佐須用水

昼はカニ山キャンプ場とする

ことにし、あくろすを出発。

佐須用水沿いに春の植物を観察しながら歩く。残念ながら佐須用水は三方がコンクリ張りになった用水路だが崖線からの湧水が田んぼを潤し野川に流れ落ちていく。水辺の植物であるセキシヨウやキツネノボタン・クレソン・ミクリが見られる。途中で花盛りのクレソンを採取。

カニ山東樹林は「カニ山の会」が保全活動を行っているところであり、伐採した幹を園路沿いに置いたり、小枝をエコスタックとして積み上げているところなどを見学。ヤマユリ・ムサシ・アブミ・クサイチゴ・キンラン・ウグイスカグラの赤い実・サワフタギの白い花などを見る。

先ほど摘んだクレソンを使いたすいとなをいただき、皆で昼食。そのあとは野草園脇から神代農場を覗き、谷戸の風景と湧水などを見学してこの地の自然のすばらしさを体感。最後はキャンプ場北で育てているドングリの森づくりについて次回講師の小島さんから説明を聞く。

4月の開講は、雑木林の若葉と春植物を堪能した講座となった。
※次回6/2(日)は「安全に活動するための知恵」

雑木林ボランティア講座は調布市主催の事業（市民との協働事業としてちょうふ環境市民会議が企画運営を担当）です。